

平成 23 年度第 3 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 23 年 9 月 8 日(木) 13:10-15:00
2. 場所 琉球大学工学部 1 号館 2 2 2 教室
3. 出席者 (敬称略) : D1:2 名、D2:1 名、D3:2 名、D4:1 名、D5:1 名、他:4 名
竹下 (編修長、名古屋工業大学)、大石 (前編修長、長岡技術科学大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、木村 (D1 主査、大阪工業大学)、船渡 (D1 副主査、宇都宮大学、記録)、森本 (D2 主査、東海大学)、米谷 (D3 主査、三菱電機)、野口 (D3 次年度副主査、静岡大学)、叶田 (D4 次年度副主査、日立製作所)、亀井 (D5 副主査、三菱電機)、山崎 (特集号ゲストエディタ、千葉工大)
欠席 : 綾野 (D1 次年度副主査、東京高専)、山口 (D2 副主査、リコー)、村井 (D3 副主査、東海旅客鉄道)、道木 (D4 副主査、名古屋大学)、近藤 (D5 次年度副主査、千葉大学)
4. 提出資料
 - 23-3-1 電子査読システム運用状況 (村上)
 - 23-3-2-1 平成 23 年 11 月号特集「回転機技術」最終報告 (山崎)
 - 23-3-2-2 電気学会産業応用部門誌 特集論文企画書 (村上)
 - 23-3-3 ~ 討論および
 - 23-3-4 ICEMS2012 call for paper (村上)
 - 23-3-5 ICEMS2012 査読に関する基本的考え方 (村上)
 - 23-3-6-1 論文委員候補者推薦用紙その 1 (村上)
 - 23-3-6-2 論文委員候補者推薦用紙その 1 (村上)

5. 議事

5.1 議事録確認

議事録については資料が無いいため次回主査会で確認することとなった。なお、メール閲覧時に修正意見が出たが、修正されているかどうか確認する。

5.2 D 部門英文誌について

大石英文誌発刊委員会委員長 (前編修長) から D 部門英文誌発刊について、概要と発刊スケジュール等について説明があった。2012 年 7 月号から隔月刊で発刊予定。査読は邦文誌と全く同じ体制・ルールで行う。3 年後には SCI 登録を目指す。論文幹事に外国人を入れる必要が有る。英語論文の投稿サイト入口を独立させる必要があるのではないかという指摘があり、要望を出すこととなった。

査読結果の英文例文、あるいは英文チェックを実施する必要があるとの提案があり、木村 D1 主査を中心にたたき台を検討することとなった。

海外からの投稿を促進するためには、投稿料を諸外国論文誌と同等かそれ以下にすべきだという意見が出た。

5.3 電子査読システム運用状況

村上編修長補佐より資料 23-3-1 に基づき説明があった。

今年の投稿状況は D1 39 件、D2 48 件、D3 42 件、D4 11 件、D5 8 件である。震災の影響で削除を保留している論文があるが、状況を見て削除する。共通英文誌は D1 5 件、D2 4 件、D3 4 件、D4 1 件、D5 8 件 D1 3 件であり伸び悩んでいる。

また、査読システムのバージョンアップについて、スライドに基づき説明があった。

5.4 特集後状況確認

山崎ゲストエディタより資料 23-3-2-1 に基づき「回転機技術」特集号について報告があり、8 件採録が決まったので特集号として成立することが確認された。

村上編修長補佐より他の特集号について資料 23-3-1 に基づき報告があり、いずれも掲載決定論文が 2, 3 件なので成立していない状況が説明された。まだ、時間があるので経緯を見守ることとなった。

5.5 特集号企画

竹下編修長より資料 23-3-3-2 に基づき「Okinawa 型ロボット・組み込みシステム」特集号について説明があった。村上編修長補佐より補足説明があり、今回は特集解説を入れたという要望がある旨説明があった。解説の場合は原稿料の支払いが必要である。審議の結果、特集号の企画については承認し、解説については解説の趣旨、著者等の情報を応募者からいただき、それを元にメール審議を行うこととなった。

5.6 紙上討論について

資料 23-3-3 について編修長から説明があった。前回主査会とその後のメール審議において、質問者が回答文を承諾すれば掲載することとなったが、承諾しなかったため、再度著者に照会した。その結果、修正した回答文が送付された。本件について審議の結果、修正した回答文を再度質問者に提示して質問者が納得できるのであれば紙上討論成立とし、納得できなければ議論が平行線で終息の見込みが無いため不成立とすることとした。

5.7 ICEMS2012 査読について

ICEMS2012 の査読において、米谷幹事から資料 23-3-4, 23-3-5 に基づき、査読者の選定に当たって査読システムの情報を活用させていただきたい旨の依頼があった。審議の結

果、利用について承認された。別途、本件の著作権について質問があり、電気学会が持つことが確認された。

5.8 新査読フローの確認

村上編修長補佐より BC 判定後に B 判定者が再度 B 判定を出した場合の対応が不明確だったので、CC 判定後に一名 B 判定を出した場合と同様にする旨の説明があった。

5.9 論文委員承認

論文委員候補者 3 名について資料 23-3-6-1, 23-3-6-2 に基づき審議の結果 3 名とも承認された。論文委員の増員について、現論文委員リストを元に発掘することとなった。

5.10 その他

村上編修長補佐から特集号の予告記事がこれまで、前月号のニュースレターに掲載されていた。IPEC-Sapporo 特集号では、電子ジャーナル化されたので前月号ではなく、当月のニュースレターに掲載することになった旨の報告があった。今後、特集号については同様に扱うこととした。

村上編修長補佐から返送異議があった旨、報告があった。次回主査会で審議することとなった。

大石前編修長より、英文誌 7 月号特集号の締切を 11 月中旬としたい旨の確認があった。広報は別途考慮することとした。

また、次回主査会は 10 月 18 日（火）13:30、市ヶ谷周辺で開催予定とすることとなった。

以上